

河野龍太郎著「成長の臨界—「飽和資本主義」はどこへ向かうのかー」慶應義塾大学出版会 2022 年 7 月 15 日刊を読む

気鋭のエコノミスト、河野龍太郎氏の話題の著「成長の臨界、飽和資本主義はどこへ向かうのかー」慶應義塾大学出版会、2022 年 7 月 15 日刊、第 1 章、第三次グローバリゼーションの光と影、第 2 節に「教育格差が経済格差を固定化する」は、現実を直視したもので、参考になります。

教育格差が経済格差を固定化する

＜世界中で孟母三遷＞

- (1) ①縁故主義ではなく、激しい競争の中で、高い人的資本を持つ人が高い報酬を得るのは公平であり、それがリベラル能力資本主義のよいところと、私たちは長く信じてきた。
②問題は、高い教育を受け、高い所得を稼ぐ人々の間で、同類婚が増え、そうした、パワーカップルに富みが集中するようになっていることである。
③もちろん、ジェンダーにかかわらず、高い能力を持つ人が高い地位に就き、より多く稼ぐようになったこと自体は、賞賛すべきことであろう。
④ここで問題にしたいのは、パワーカップルが増える中で、子弟の教育を通じて、経済格差が固定化されることである。
- (2) ① 1980 年代以降、先進各国では、高い所得を獲得し、比較的高い税金を納める家庭が、公的教育の質に強い不満を持つようになった。
③ただ、公的教育には普遍性も必要だから、簡単には期待に応えられない。
④高い教育を受けたから自らが高い所得を獲得していることを痛感している家庭は、何とか高い教育を子どもに与えようとする。
- (3) ①起るのは、「孟母三遷」である。
②自分たちと同じような高い教育を受けた高い所得を獲得する家族が多く住む地域への転居が進む。
③教育は、外部効果が大きいから、こうした家庭が抜け出すと、地域の教育レベルは低下していく。
④大金持ちは別にして、かつては豊かな家庭も貧しい家庭も同じ地域で混在していたから、教育に大きな格差はなかった。
⑤しかし、いったん逆選択が始まると、公共サービスの質は低下し、悪循環が始まる。
⑥新自由主義的な政策の弊害として、世界各国で最も早くから指摘されていたのが、公教育の問題であった。

＜教育格差は、二世代にわたって続いている＞

- (1) ①この話は、ICT 革命や、グローバリゼーションも影響している。

- ②オフショアリングによって、製造業の生産拠点が失われた地域では、製造現場での良好な賃金の仕事が消失し、中間層が瓦解した。
- ③高いスキルを持ったホワイトカラーは、その地域から抜け出し、高い賃金の仕事を見つけ出しが、
- ④コミュニティに残るのは、スキルが乏しく、低い賃金を甘受せざるを得ない人ばかりである。
- ⑤生活にゆとりがなくなると、子どもの教育も疎かになる。
- ⑥コミュニティの根幹をなす学校のレベルが低下すると、ゆとりがあり教育を重んじる家計は、そのコミュニティから徐々に抜け出していく。
- (2) ①こうした動きが、1980年代以降、すでに、二世代にわたって続いている。
- ②質の高い教育を受けることができるのは、高所得者の子弟ばかりとなり、教育を通じて、経済格差が固定化される。
- ③開かれた社会だったはずのリベラル能力資本主義は、そうではなくなりつつある。
- (3) ①この話は、実は日本にもそのまま当てはまる。
- ②子弟の教育水準が、親の教育水準や所得水準に依存するだけではない。
- ③地域によって、親の教育水準や所得水準が大きく異なるため、進学機会の格差の拡大・固定化が、高校進学時ではなく、小学校、中学校の段階で観測されるようになっている。
- ④大卒者が多く、所得の高いエリアの小中学校では、勉強することは当たり前であり、将来大学に進学することも、また、そのために塾に通うことも普通のことと、無意識のうちにとらえられる。
- ⑤が、大卒者が少なく、豊かでないエリアの小中学校では、そうではない。
- (4) ①質の高い教育を欲する豊かな家庭は、転居が難しい場合、義務教育段階から、子弟を私学に通わせる。
- ②評価の高い私学が優れているのは、学校の教育が優れているというよりも、集まる生徒が優秀なためである。
- ③優秀な児童・生徒が抜け出した学校の教育レベルは低下する傾向にある。
- ④こうした問題を棚上げして、教育方法や内容を変えるだけで、無理に教育レベルを底上げしようとするから、事態はますます悪化するのだ。
- ⑤日本でも、教育格差が拡大し、今、東京をはじめとする主要都市のトップ大学は、裕福な家庭の子弟のための学校となっている。

<コメント>

このような見方に対して、ではどのように、開倫塾はじめ、全国の学習塾、予備校、私立学校、公立学校は対応していったらよいか。

せっかく、開倫塾の塾生として在籍してくださっている大切な塾生を、「経済格差、地域格差のために学力格差が生じる」などという状況にならないよう、たとえ講習会など短期間ではあっても、在籍期間中は、しっかり指導していきたく考えます。

がんばりましょう！

2025年12月7日